

できることから  
はじめよう！  
環境にいいこと  
ひとつずつ



# 城陽エコパートナー通信 Vol.78

発行日：令和5年(2023年)7月20日  
会員数：277人(令和5年6月30日現在)

編集・発行：城陽環境パートナーシップ会議  
(事務局) Tel(56)4061 Fax(66)6828

## 第1回自然観察会を開催しました！ ～環境評価特Aの木津川河川敷～ 文：中川委員

5月13日、愛鳥週間恒例・バードウォッチングが開催されました。愛鳥週間は、野鳥を大切に见守ることが自然や生息環境を考える機会となって、豊かな自然と野生の命を顧みる自然保護思想の普及を願って76年も前に制定されています。城陽環境パートナーシップ会議では、郷土の自然財産である野生動物と環境保全の啓蒙の場として、年に3回の自然観察会を開催してきました。

餌が乏しい季節に冬越しをする鳥たちの定着性や環境要因を推測し、保護に役立つデータを得ることを目的とした冬期観察会に対して、愛鳥週間は野鳥たちの繁殖の季節で、鳥たちが営巣に適した環境を確保し、子育てに伴う採餌や外敵など様々な要因を経て命をつなぐ生活史の観察です。

木津川河川敷フィールドは、環境省の鳥類標識調査の主要地としても登録され、これまでに流域で180種類を超える野鳥たちの観察記録と、環境省の標識足環を装着する鳥類標識調査で106種類もの公式記録は特筆ものです。この中には、京都府で初の繁殖記録となったイソシギや、同じく河川中流域で初めて繁殖が確認されたシロチドリにイカルチドリ、希少猛禽類のコミズクとトラフズクの標識放鳥など、次代に引き継ぐ希少鳥類たちの貴重な記録が数多くあります。

また、全国でも例がない標高15mの平地でウグイスが繁殖!との論文が鳥学会誌を飾っているのがまさに城陽市の木津川河川敷なのです。同じく学術的意義の大きな希少鳥類の記録では、当地でカワラバシと呼ぶ国際希少鳥類にして京都府の

希少野生生物に指定の絶滅寸前種・コアジサシが、全国でも3ヶ所しか知られていない天然河川流域でのコロニー復活で注目されたのは1995年のことでした。以後衰退を続け、5年前に増水による繁殖失敗を最後に確認されておらず復活が期待されています。

そうした城陽市が全国に誇る野鳥の宝庫・木津川河川敷では、年間を通して保護団体のバードウォッチングの開催で多くの記録が寄せられ、文献資料となる希少鳥類のマスコミ報道も多々あります。「城陽パートナーシップ会議」でも、上流部の山城大橋フィールドと共に水主グラウンド周辺部で自然観察会を重ねて20余年が経ちました。今回のメイン講師・田中寿樹さんも、実に10年ぶりに兵庫県三田市からの参加です。

こうした歴史ある愛鳥週間・バードウォッチングには、26人の同好の士と共に28種類の野鳥たちを観察しました。物足りない記録にも思われますが、繁殖期における「環境指標生物チェックリスト」に照らし合わせたの点数化による評価では、72点の特Aランク『理想的な自然環境を有する生物の宝庫』との結果を得ています。

今後10年20年先も、全国に朗報発信できることを願っています。



①参加者記念撮影



④かつての初夏の風物詩  
コアジサシの子育て



③準絶滅危惧種 イカルチドリ



②田中さんら講師陣

## 2023年度総会を開催しました！

6月24日(土)13時より、2023年度総会を開催しました。出席者は事務局含め26名となり、エコパートナーシップうじたわらのメンバーにも出席していただきました。まずは会長より、「3年ぶりに通常開催とした『第21回城陽市環境フォーラム』では、子どもから年配の方まで多数の参加があり、市民の環境問題への高まりを実感しました。また、パネルディスカッションでは、高校生、大学生、市民、運営委員のほぼ三世代に渡るみなさんにご参加いただき、未来の環境を共に考える貴重な機会となり、環境啓発に若い人を巻き込む重要性を改めて認識したところです。」と挨拶がありました。

次に、2022年度事業報告及び収支決算、2023年度事業計画(案)及び収支予算(案)が上程され、審議の結果、満場一致で承認されました。

最後に、役員を選出が議案になりました。会員より、会長及び監事について現職の継続を希望する声上がり、審議の結果、満場一致で承認され、大野会長と竹内監事が就任することとなりました。副会長については、大野会長が芦原氏を指名し、審議の結果、満場一致で承認されました。役員・運営委員は計23名となりました。これを以て、総会を終了しました。

終了後、出席者全員で記念撮影をしました。



## ■ 2022年度収支決算(2022年4月1日～2023年3月31日)

### 1. 総括表

項目	決算額	備考
総収入	893,896	
総支出	551,773	
収支差額	342,123	令和5年度(2023年度)へ繰越

### 2. 収入

項目	予算額①	決算額②	差額②-①	備考
(1)会費	280,000	280,000	0	賛助会費 14会員×20,000円
(2)募金・寄付	4,800	24,500	19,700	環境パートナーシップ募金24,500円
(3)参加費収入	0	0	0	
(4)補助金	300,000	300,000	0	「城陽市活動支援補助金」300,000円
(5)雑収入	510	21,469	20,959	普通預金利息4円
(6)前年度繰越金	267,927	267,927	0	
合計	853,237	893,896	40,659	

### 3. 支出

項目	予算額①	決算額②	差額②-①	備考
(1)事業費	659,200	421,938	△ 237,262	ゴーヤ苗の育成に関する消耗品、花いっぱい運動に関する用具代・苗・菜種代、畑の肥料代、温室内消耗品・備品・修繕費用、デイリーエコチョイスJOYO作製費、生き物ガイドブック作製費、グリーンカーテンフォトコンテスト写真用紙・賞品代、カーボンニュートラル絵画展賞品・展示消耗品代、自然学習会キット(フレーム・ノリ他)代、イベント展示資料・啓発用配布チラシ作製印刷プリンターインク代、など
(2)広報費	58,400	53,290	△ 5,110	会報の市内特別郵送代(年4回)
(3)調査研究費	3,000	0	△ 3,000	支出なし
(4)事務費	119,000	76,545	△ 42,455	賛助会費・印刷代等の振込手数料、切手代、クワト封筒(長4)代、事務消耗品費など
(5)予備費	13,637	0	△ 13,637	
合計	853,237	551,773	△ 301,464	

## ■ 2023年度事業計画

環境ビジョン	2023年度の取組内容
パートナーシップ	総会の開催
	城陽市環境フォーラム及び環境ミニフォーラムの開催
	第2次環境基本計画の取組み
	会報（エコパートナー通信）の発行(年4回)
	ゼロカーボンシティ実現に向けた取組み
生活	身近な河川の清掃活動の実施
	グリーンカーテンの普及・啓発
	花いっぱい運動の実施
自然	身近な河川と里山で見られる動植物の観察会の開催(年3回)
	城陽生き物ガイドブック(さかな編)の作製
	竹林の整備(竹炭づくり)
	どんぐりやまプロジェクトの実施(市との協働)
	はたけあそびくらぶ(試行)
地球環境	デイリーエコチョイスJOYOの活用
	カーボンニュートラル絵画展の開催(市との協働)
	デイリーエコチョイスJOYOの動画作製
循環	3R活動の推進
	「Joyo Eco Choice!」の活用
	環境学習会の開催
	マイボトルの推進
	城陽市のフードドライブ事業協力
	環境美化の推進

- 運営委員会の開催 毎月第1木曜日
- 部会の開催 毎月第3木曜日

## ■ 役員・運営委員の紹介

役職	氏名
会長	大野 和宣
副会長	芦原 昇
監事	竹内 康
運営委員	浅田 和利
//	一瀬 裕子
//	上野 さや子
//	岡井 昭憲
//	奥田 禎爾
//	木下 晴夫
//	小林 駿
//	小林 順寛
//	阪部 晃啓
//	崎嶋 毅昇
//	堤 靖雄
//	中川 宗孝
//	中島 和代
//	新川 達郎
//	細川 寛明
//	本城 隆志
//	水野 尚之
//	山岡 正信
//	山村 元秀
//	米田 由紀子

(敬称略・五十音順)

## ■ 2023年度収支予算 (2023年4月1日～2024年3月31日)

### 【収入の部】

単位：円

項目	予算額	前年度予算額	対前年度比較	摘要
(1)会費	280,000	280,000	0	賛助会費 20,000円×14会員=280,000円
(2)募金・寄付	4,800	4,800	0	募金 400円×12月=4,800円
(3)参加費収入	0	0	0	
(4)補助金	300,000	300,000	0	城陽市(300,000円)
(5)雑収入	5	510	△ 505	普通預金利息
(6)前年度繰越額	342,123	267,927	74,196	
収入合計(A)	926,928	853,237	73,691	

### 【支出の部】

単位：円

項目	予算額	前年度予算額	対前年度比較	摘要
(1)事業費	747,610	659,200	88,410	自然観察会講師謝礼、花いっぱい運動活動費、ゴーヤ種代、生き物ガイドブック作製費、カーボンニュートラル絵画展・グリーンカーテンフォトコンテスト賞品代、デイリーエコチョイスJOYO動画の作製費他、環境学習会での使用教材費、消耗品費用など
(2)広報費	80,400	58,400	22,000	会報郵送料 73円×200会員×4回=58,400円 カラー印刷代2回分(10月、1月発行予定) 20円×500枚×1.1×2回=22,000円
(3)調査研究費	3,000	3,000	0	参考資料、書籍等購入代
(4)事務費	84,000	119,000	△ 35,000	切手代、会費振込手数料、その他振込手数料、慶弔費、事務消耗品、封筒代など
(5)予備費	11,918	13,637	△ 1,719	
支出合計(B)	926,928	853,237	73,691	
収支差額(A)-(B)	0	0	0	

## 「城陽生き物ガイドブック～さかな編～」が完成しました！

当会議で作製している「城陽生き物ガイドブック」の最新版が完成しました。今回は、希少生物編から始まり、昆虫編、植物編、キノコ編に続いて第5弾となるさかな編です。身近に見られるさかなを知ることによって地域の自然環境に親しみを感じてもらい、ひいては環境保全の大切さや地球環境について考えるきっかけとなることを目的としています。

宇治川、木津川水系で観察できる魚類48種を、京都府南部を中心に近辺で撮影した写真とともに、解説付きで掲載しています。解説には府立菟道高校教諭である林博之氏にご協力いただき、近年の魚類研究に基づいた、専門的な詳しい解説を掲載しています。また、城陽市内での俗称を併記しているさかなもあり、環境郷土

資料としての役割も担っています。

ぜひこのガイドブックを片手に、新たなさかなや希少なさかなの発見にご活用ください。

★このガイドブックは6月26日(月)より、事務局(城陽市環境課)窓口にて配布中です。(1人1冊)



★さかな編は HP で公開中です! →  
←過去のガイドブックはこちら



## 環境ミニフォーラムを開催しました！

6月24日(土)福祉センター1階ホールにて、環境ミニフォーラムを開催しました。今回のミニフォーラムでは、「城陽生き物ガイドブック～さかな編～」の作製にご協力いただいた、府立菟道高校教諭の林博之氏と同校科学部の生徒による講演会および研究発表を行いました。「城陽生き物ガイドブック～さかな編～」への関心は高く、一般参加を含めると58名の方が講演会に出席されました。

林博之氏には、「次代に残そうふるさとの自然～京都府南部における淡水魚の状況～」をテーマに講演会をしていただきました。「城陽生き物ガイドブック～さかな編～」の利用方法から始まり、近年の魚類研究では、分類方法の変更により種類の細分化



が進んでいると発表がありました。カワムツとヌマムツ、ヨドゼゼラとゼゼラ、カマツカとナガレカマツカ等、以前まで同種とされていた魚類が別種とされるものが増加しているとのことでした。

科学部の生徒からは、「京都府南部のドジョウの分布調査」をテーマに研究発表があり、京都府南部における在来ドジョウと外来ドジョウの分布について報告がありました。府南部では、一部を除いてほとんどのドジョウが外来であり、府北部では在来が残っているかもしれないとのことでした。



株式会社 城南工建

〒610-0113 京都府城陽市中芦原27番地の1  
TEL 0774-53-3939 FAX 0774-55-1172

東城陽ゴルフ倶楽部

〒610-0121 京都府城陽市寺田奥山1-48  
TEL 0774-52-1161

次の団体・個人から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。

近畿砂利協同組合、京都城陽ロータリークラブ、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、(株)城南工建、城陽市、城陽商工会議所、城陽金融会、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、東城陽ゴルフ倶楽部、(株)平和堂アル・プラザ城陽、(株)ミズホ、森澤博光 ※令和5年6月末現在(五十音順・敬称略)